

PROFILE



宮城大学 事業構想学群 教授 地域創生学類 学類長 研究推進・地域未来共創センター 副センター長

佐々木秀之

学 位:博士(経済学)、経営管理修士(MBA)

専門分野:地域経済学、日本経済史、ソーシャルビジネス 所属学会:日本計画行政学会、日本マーケティング学会、

日本建築学会 等

略歴

1974年仙台市生まれ。岩手大学農学部卒業後、商社勤務等を経て、 東北学院大学大学院経済学研究科へ社会人入学。2011年3月修了、博士(経済学)。 東日本大震災の復興過程では、起業家支援・復興まちづくり計画の策定等に従事。 2016年より現職。

地方自治体のシビックエンゲージメント受け入れ事情

- ・学生の受け入れ(2024カンファレスにて報告)
- →大学の地域系学部の増加、地方自治体との連携 例、

Co-Innovation University

略 称 ColU(コーアイユー) 共創学部/地域共創学科 2026年4月開学

地域・世界が抱えるさまざまな課題の解決は、知識だけではとっくに難しい。 だからこそ、授業を聞くだけではなく、理論と対話と実践を行き来したいと思う。 キャンパスは飛騨、そして全国のプロジェクトであり現場たち。

→学生が主体的に学んでいくには、学問的体系化と まではいかなくとも、ある程度の方法論が必用

宮城大学「地域フィールドワーク」 @ 2025 蔵王町















宮城大学「地域フィールドワーク」 @ 2025 蔵王町











宮城大学「地域フィールドワーク」 @ 2025 白石市











宮城大学「地域フィールドワーク」 @ 2025 白石市







宮城大学 コミュニティプランナー(CP)・地域フィールドワーク 地域共創型実践教育 科目構成

称号授与(卒業時)

コミュニティ・プランナー アソシエイト

3年前期・後期(計2単位)/選択科目

CPフィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ

2年後期(2単位)/選択科目

CP実践論

2年前期(2単位)/選択科目

CP概論及び演習

CP 関連科目

既設開講科目 より選択履修

1年前期(1単位)/必修科目

地域フィールドワーク

学生の主体性

教員のサポート

近年の社会課題に目を向けると、一つの分野だけ では解決することが難しい ような、複雑な問題が数多くあることに気づきます。 そして、そのような課 題を解決していくためには、知的関心を広げ、複数の分野を横断的に学んで いく必要があります。

兵庫県立大学では、3つのプログラムを副専攻として設けています。



この3つの副専攻の中で、兵庫県やまちづくりに興味のある人材を募集して いるのが「地域創生人材教育プログラム(以下RREP)」です。

新温泉町▼ ▼香美町 豊岡市▼ 神河町 ▼ ▼西脇市 福崎町 ▼ 姫路市北八代地区 ▼三田市 たつの市▼ ▼姫路市二階町商店街 ▼川西市 相牛市▼ ▼宝塚市 三木市口吉川町 V ▼灘区 明舞団地 平野地区 塩屋地区 ▼淡路市 ▼洲本市 ▼ 南あわじ市福良地区

西脇市との連携事例





「ひょうご地域課題概論」にて講義(西脇市長および澤田氏)

・姫路市との連携事例





「地方公共団体の行政を学ぶ」にて講義(姫路市長)

JA 共済連兵庫との連携事例





寄付金受贈式

「ひょうご地域課題概論」にて講義

東北・宮城の 生きる力をつむいで、 地域とともに歩む。

宮城大学では、地域の歴史・文化・資源を活かした コミュニティづくりや、地域の人びととともに 課題解決ができる人材 (コミュニティ・プランナー) の育成を目指す

教育プログラムを学課と大学院のそれぞれで実施しています。 地域コミュニティの現場に触れ、白らの目でみて・聞いて・体験し 学習することで、地域の人びととともに考えながら、 地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの 実践手法を習得していきます。

地域の再生・発展には、人と人とのつながりが大切。 だからこそ求められる、コミュニティの未来を創造する力。

▶ コミュニティ・ブランナー/ コミュニティ・プランナー(CP)プログラム

現在 小共帰期の主ちづくり分裂 遅延や圧縮 商業の商業など あ らゆる分野において、地域主体の視点を持った人材が求められています。 本プログラムにおけるコミュニティ・プランナーとは、地域が抱える多 様な課題の解決や、地域が求める多様なコミュニティづくりに貢献でき

このような人材を育成するために、阪神・淡路大震災および東日本大 震災からの復興に取り組んできた兵庫県立大学と宮城大学が連携し、被 災地に立地する公立大学として互いの強みを生かしたプログラムを展開

▶ 単位について

学群プログラム

基盤教育科目の「地域フィールドワーク、1科目1単位、CP科目の「CP框 論および演習」「CP実践論」「CPフィールドワーク演習I」「CPフィールド ワーク連要目。の4利目6単位、各学経療存料目である「CP関連科目」の うち2領域以上から7科目13単位以上を関係します。合計20単位以上を 履修することで卒業時に宮城大学と兵庫県立大学の学長の連名で『コミュ ニティ・ブランナー アソシエイト』の称号および証書が提与されます。

事業機划学研究科博士前期課程において開講している「CP特別演習」 「CPプロジェクト研究」の2科目4単位を関係することで、第了時に『コミュ ニティ・ブランナー』の称号および証書が授与されます。

▶ 学びの特徴



↑ フィールドは宮城県全域 /

地域のステークホルダーと連携した

本プログラムでは、第一線で活躍する専門家とともに、 自治体や企業・NPD等の地域社会のステークホルダーと 連携したフィールドワークを取り入れることで、より社会 に貢献できる実践的な能力を育成します。

●事業マネジメント能力

社会で必要とされる実践的な能力を養成 ● 調査・分析能力 ● ファシリテーション能力

持続可能(サステイナブル)な地域コミュニティを構築し、維 持してゆくためには、縁ある確認をベースにして、人、極常、動物、 全での生命(いのち)がつながり、関わり合うことが必要です。 このような、すべての生命(いのち)のつながり、関わりを意味 するものを 「GREEN」として、本プログラムにおける新視点として 限定しています。

▶ 学群プログラム・カリキュラム概要

基盤教育科目【全学必修科目】 前期 1 単位

1年 フィールドカら学びや気づきを得る 地域の自告・歴史・文化等を学びながら、グループウ クやフィールドワーク ク・フィールドワークを通して地域の魅力や課題 お歌の日前で深て、又にゆるすいなから、クルーノフー クセフィールドワークを選して地域の魅力や課題な ど、様々な気づきを保します。地域社会の将来に対 する使命感を逃費し、今後の大学生活における主体 的な学びに向けた動機づけとすることを回接します。

兵庫県立大学

2年 の要な基礎知識の習得 CP概論および演習 前期 2単位

調査・企業力、ワークショップ運営や ヒアリングの共衝など、コミュニティ・ プランナーとしてフィールドに出た際に 必要なリテラシーを学び、地域の方々 のパートナーとして課題を1分によす。 できる基礎技術の姿勢を目指します。 パートナーとして課題解決に貢献

トップランナーから実践を知る CP実践論 (2.8/位

地域コミュニティに関わる専門家と 地域コミュニティに関わる専門家と のフィールドワークや講義による事 例把類、実体観を適じて、地域活 性策を実行するプロセスへの理解を 深め、より実践的な知識や技術の 獲得と学びの深化を目指します。

3年 知識を技能に変える実習 CPフィールドワーク演習 I 1998年1998

CPフィールドワーク演習 II WIN 1860 コミュニティを再生していく実践的な 経験を通して、コミュニティ・ブラン ナーとしての職能を理解しながらス テークホルダーとの監修手法や地域 ナーとしての映画・ テークホルダーとの協議手法や地々 課題解決の実践予法を管得します。

● 都市計画 ● 風土・伝統デザイン ● 景観工学 ● 地区・街区計画 ● 青菜農村振興論 ● フードコミュニケーション ● 食文化論 グリーンビジネス

グリーンデザイン

各領域の知識と理解を深める

グリーンケア・グリーンビジネス・グリーンデザインの3領域 のうち2領域以上から7科目13単位以上選択します。主尊

改に近い領域だけではなく、倍領域についても学ぶことで、 コミュニティ・プランナーとしての知識や技能を深めます。 ISBMに発展がイドラッドしてくがない。

● 人間発達学 ● 人間関係論 ● 毎月心理学 ● 災害活動論 ● ライフステージ看護学報論 I・II ● 地域看護学報論 ● 食品衛生学 ● 栄養科学

● 国土・地域計画 ● 防災計画 ● 都市と文化

CP関連科目

・公共衛生学 ・ 地域活性化とビジネス ● 地域企業語
・ 社会調査法 ● 地域分析学 ● 地域電報政府
・ ツーリズムデザイン ● 食品マーケティング基礎
・ ローカルフードシステム論 ● 食料・農業・農村政策

▶大学院プログラム・カリキュラム概要

科学的手法の実践力・応用力の習得 CP特別演習 IIII 2460

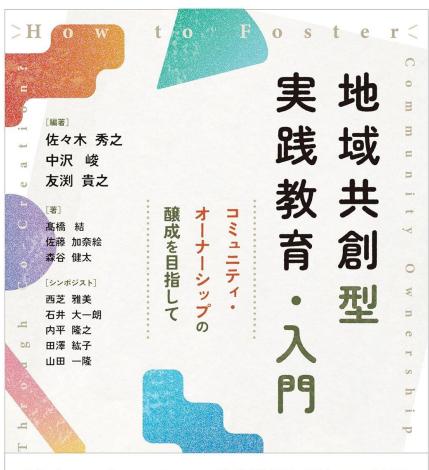
2年 各専門分野に基づく事例研究や実地研究を適じて、コミュニ ティにおける課題・ニーズの調査手法や、コミュニティとの協 動手法など、科学的手法の実践力・応用力の習得を目指します。

効果的なプロジェクトの構想と提案 CPプロジェクト研究 WH 280 地域やプロジェクトに対する精酸な分析を踏まえて、効果的なプロ ジェクトの構想と確素を行い、地域連勝の解決に責する情想力や実 行力といった地域社会に貢献できる高度な実践力の習得を目指します。

宮城大学



方法論、学生による地域プロジェクトの実施手法



誰と、どこで、

どんなふうに、

生きたいか。

三者にとって豊かな学びとしていくためのプロセスを、実際の事例を元に考える。国外の事例や、修了生のクロストークも収録。

はい風、よい土として……

旅するガイドのためのが人ドブック。 北樹出版

近年実践が広がる、地域をフィールドとした

学びの潮流を整理し、学生・教員・地域の

2024/8/5

地域共創型実践教育・入門: コミュニティ・オーナーシップの 醸成を目指して

第1部 地域における学びと共創の現在地

第1章 社会と接続する学びの潮流 第2章 地域志向の学修プログラムの展開 第3章 コミュニティ・オーナーシップ

第2部 地域共創型教育実践を可視化する

第4章 地域共創型教育の実践モデル 第5章 講義の様子 第6章 事例報告

- ・三陸沿岸部の魅力の発見と発信(宮城県名取市)
- ・地域資源である「ひと」との交流と魅力の発信(宮城県石巻市)
- ・震災を経験していない子どもたちへの防災教育(宮城県松島町)
- ・映像を用いた地域のPR(宮城県亘理町)
- ・フードロス問題の普及啓発に向けた情報発信(宮城県富谷市)

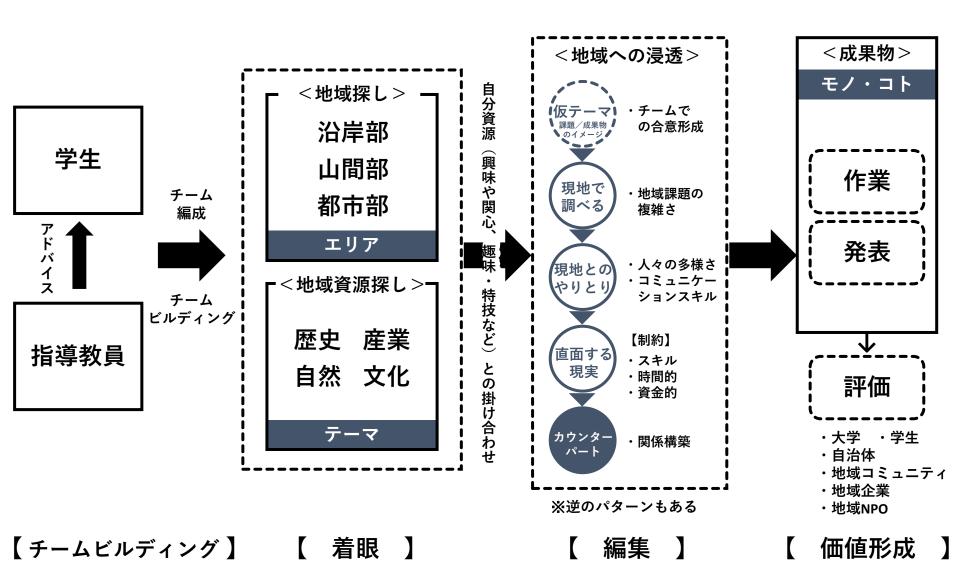
第3部 地域共創型実践教育のビジョンを探る

- 1 各大学での地域における学修の取り組み
- 2 地域との連携や関係性づくりの捉え方
- 3 地域に向き合う気持ちの育み方
- 4 地域と学生とのチームビルディング
- 5 これからの地域共創型実践教育の課題と展望

●修了生クロストーク

CPプログラムでの学びについて/CPプログラムと現在の仕事とのつながり/ 後輩に向けて 10

参考資料、地域プロジェクト・概念図



地方自治体のシビックエンゲージメント受け入れ事情

・多様な主体の受け入れ(今回、2025カンファレス)

→先行研究

矢部(2018)『反知性主義としてのまちづくりと地方創生』

補助金による住宅供給が市場を歪めており、健全な都市形成を阻害している。 民間主導のリノベーション型まちづくりとの対比を通じて、行政主導の限界を批判。

萩野ほか(2021)『自治の質量とまちづくりの飯田モデル』

自治体が強く関与して設立された地域自治組織では、住民の主体性や当事者意識が希薄になる傾向がある。

「まちづくりの主体は住民であり、行政は黒子に徹するべき」という飯田市の事例を通じて、行政主導の弊害を指摘。

青木ほか(2012) 『協働のまちづくり推進における課題と方策』

南房総市の事例を通じて、行政と市民の間で「協働」に対する認識のズレがあり、 行政主導のまちづくりが一律に進められない現実を分析。

地域特性を無視した行政の一方的な施策設計が、住民の参加意欲を削ぐ要因になっている。

フレームワークの検討①



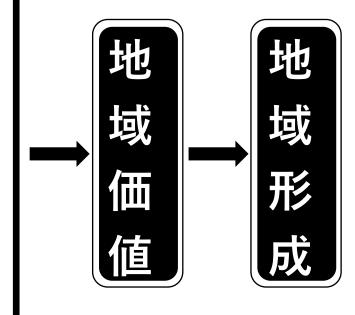
中間生産物 自然 文化・社会

経営資源

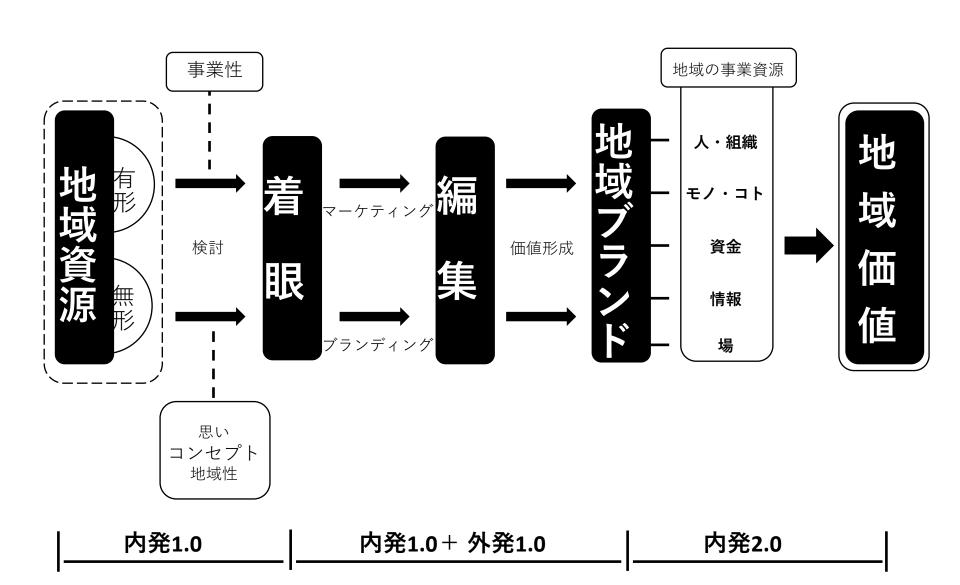
人 モノ・コト

資金 情報 場

特產 地域資金 地域情報 人工施設



フレームワークの検討②



参考、地域資源を巡る動向

2007年6月施行 →2020年に廃止となった

「中小企業による<mark>地域産業資源</mark>を活用した事業活動の促進 に関する法律」(通称、地域資源法)

第1条 この法律は、中小企業による地域産業資源を活用した事業活動を支援することにより、地域における中小企業の事業活動の促進を図り、もって地域経済の活性化を通じて国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする

⇒ 中小企業の活性策としての「地域資源法」

各都道府県の地域資源情報(j-net21)サイト (http://jnet21.smrj.go.jp/expand/shigen/kousou/index.html)

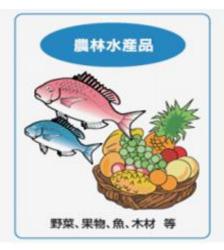
地域資源法における地域資源の捉え方

地域資源とは、

「その地域ならではのリソース(産業資源)」である、特産品や観光名所を指す。

- 1.地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物や鉱工 業品(野菜、果物、魚、木材 等)
- 2.地域の特産物である鉱工業品の生産に係る技術(鋳物、繊維、 漆器、陶磁器等)
- 3.文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源として相当程度認識されているもの (文化財、自然景観、温泉等)







地域資源 II

II 産業資源

ねらい

製品・サービス + 地名

=地域ブランド

さらには、 付加価値化による 新産業の創出

地域資源活用法の廃止後

地域特性を生かして地域経済を牽引

地域未来投資促進法



地域資源法の内容は、「地域未来投資促進法」に包含された

2024年からの地方創生2.0政策では、地域資源を強調